

次のうち、平成時代初期の1989年（平成元年）と比較したときの2017年（平成29年）の我が国の木材産業に関する記述として妥当なのはどれか。

1. 木材需要量は増加している。
2. 木材自給率は減少している。
3. 木材輸出額は減少している。
4. 国産材を利用した合板の国内生産量は増加している。
5. 木造軸組構法におけるプレカット率は減少している。

一般的な木材の接着及び接着剤に関する次の記述のうち、妥当なのはどれか。

1. 空隙が多い低密度の木材の方が、空隙が少ない高密度の木材よりも接着剤の浸透性がよいため、接着力が高い。
2. 木材は含水率が高いほど接着力が高いため、集成材などの製造では、木材表面の含水率を20%以上に上げるなどの前処理が必要となる。
3. ユリア樹脂接着剤は、ホルムアルデヒドの放散が少なく、耐水性が高いため、構造用木質材料の製造によく使用されるが、若干高価である。
4. フェノール樹脂接着剤は、常温で硬化し、硬化後は透明となり意匠性に優れているが、耐熱性、耐水性に劣るため、主に家具用や造作用として用いられる。
5. レゾルシノール樹脂接着剤は、暗褐色で、常温で硬化し、構造用集成材などの製造に使用されている。